

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*引伸ばし用露光計発見

先人の退職した後のデスクの引き出しに遺されたものについて記事を何回か書いた。今回もその関連である。今は天文台では自分で写真を焼き付けるという作業はなくなってしまったが、今から30年以上前は技術系職員の主な仕事の一つであった。白黒写真は定量的な議論ができるので天文台での写真技術は白黒写真であった。定量的な議論のできないカラー写真の現像焼き付けを天文台でやったという話は聞かない。

天文台の天体写真を撮る研究室はそれぞれが自前の暗室を持っていた。観測が写真観測から電子媒体に移って天文台の暗室は取り壊され、他の実験室やクリーンルームに改装された。現在では太陽塔望遠鏡に暗室が残っているのみである。

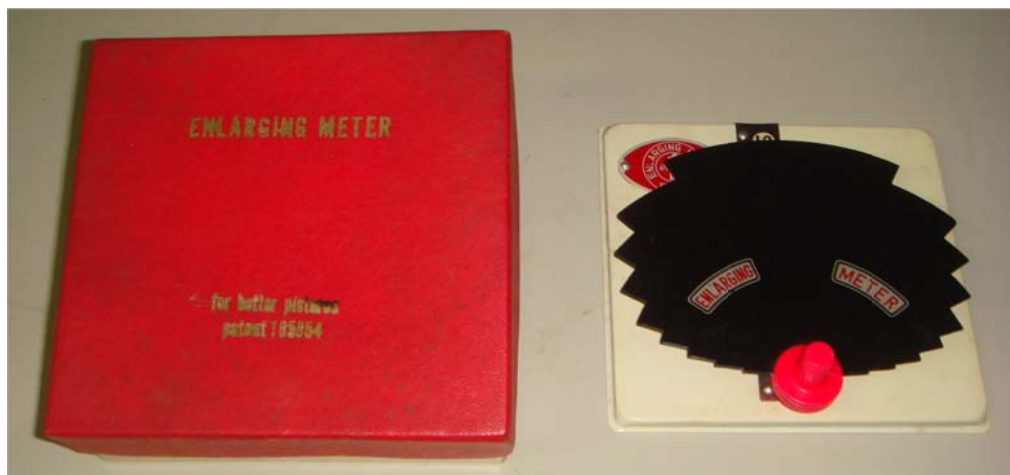


写真1

今回の引伸ばし用露光計(写真1)は白黒写真の焼き付けの際の露光計であるが、筆者は初めて見るものである。説明書が旧仮名遣いで書かれているから相当古いものであろう。

商品名は「ENLARGING METER」日本語で「引伸用露光計」とある。文字通り写真の焼き付け時の引き伸ばし露光計である。特許番号もあるから特許を得ている。

筆者が写真焼き付けの際、露出時間はテスト用の印画紙に覆いの露光遮蔽板を少しずつずらしながら、1秒、2秒、3秒、4秒、5秒、6秒、7秒、8秒、9秒、10秒と露出テストをやって露出時間を決めていたが、熟練してからは、ほとんどその必要もなかった。

この器具の使い方(写真2)のところに書いてある「係数板の下に試験用の印画紙をはさみ」というのがよくわからないのだが、縦に露光係数が書いてある右側にテスト用印画紙を載せて、回転盤を廻し、10秒、20秒など、少し多めの時間露光させて適正露出を決めるということのようだ。しかし、この器具が非常に軽いため、回転させると動いてしまうので非常にやりにくい。回転盤を回すために隅を押えて回すのも非常にやりにくいのである。

露光係数と回転盤が分かるように撮ったものが写真3である。



写真2 使用説明書



写真3

非常に使いにくいもので、そのためかこれを使っていた人を知らない。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp